

# 都市再生整備計画(精算報告)

きたきゅうしゅうしや はたちく  
北九州市八幡地区

ふくおかけん きたきゅうしゅうし  
福岡県 北九州市

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	八幡地区	面積	649 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

### 目標

大目標:環境首都を担う先進モデル地区として、市民・事業者のみならず、来訪者をも含む環境共生まちづくりを実践し、魅力的で持続可能な都市環境の創造とにぎわいの創出を目指す。

- 目標1:公民協働による環境共生まちづくりの推進
- 目標2:人と地球環境にやさしい都市環境と質の高いエコライフの創造
- 目標3:緑豊かで潤いのある街並みと快適で利便性の高い都市生活の創造
- 目標4:既成市街地における街なか居住の促進

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

##### 《まちづくりの経緯》

- ・当該地区は、明治34年(1901年)官営八幡製鉄所(現在、新日鉄八幡)の創業以来、20世紀の日本の近代産業を支え、時代の先導役を担ってきた地域であるが、近年、産業構造の転換とともに、製鉄所においても未利用地が発生したことから、土地区画整理事業により「スペースワールド」をはじめ、商業・業務・居住・文化といった複合的な都市機能を集積する新たな都市空間の形成に取り組んでいる。
- ・北九州市においては、八幡東田地区を会場として、環境を主要テーマとして掲げた「ジャパンエキスポ北九州博覧祭2001」を開催し、廃棄物の減量、資源のリサイクル、製品のリユース等の取り組みを行い、多くの成果を得た。
- ・当該地区は、博覧祭後、国の全国都市再生緊急措置「環境共生まちづくり」のモデル地域に選定され、「八幡東田地区グリーンビレッジ構想」を策定し、民間主体による環境共生型のまちづくりを進めている。
- ・また、当該地区は、環境共生型まちづくりを進めていくため、構造改革特区制度を積極的に活用している。
- ①資本関係の無い企業間において、自前の送電線による電力供給ができる「北九州市国際物流特区計画」を活用し、環境負荷の少ない「天然ガスコジェネ発電」による地域内電力供給を行っている。
- ②「市民力が創る「環境首都」北九州特区」を活用し、NPOにより「環境にやさしいレンタカー型カーシェアリングのための無人貸出可能化事業」を実施している。
- ・当該地区を含む小倉・黒崎・洞海湾臨海地区は、「地球温暖化対策・ヒートアイランド対策モデル地域」に指定されている。
- ・国の「次世代エネルギー・社会システム実証」地域として東田地区が選定され、八幡東田グリーンビレッジ構想とも関連し、街区の低炭素化を実現する「北九州スマートコミュニティ創造事業」を推進している。

##### 《現況》

- ・当該地区においては高度成長期に深刻化した公害問題を市民・企業・大学・行政が一体となって克服した経験が当該地区の公民協働の環境活動やまちづくりに活かされている。
- ・「環境ミュージアム」は、市民のための環境学習・交流総合拠点施設として、市民・NPO等の環境教育、環境情報、環境活動のセンター的な機能を果たしている。また、SHINE博物館構想に基づき、自然史歴史(いのちのたび博物館)、産業科学(産業技術保存継承センター)の博物館群が形成されている。
- ・当該地区は、従来から商業、業務、住居等の都市機能が立地・集積し、道路、水道、下水道等の都市インフラが充実しているものの、高齢化の進行が著しく、居住人口も減少している。

#### 課題

- ・環境首都を推進するためには、市民、NPO、企業、行政等の多様な主体による協働の取組みが重要であり、そのような活動をさらに充実、発展させる必要がある。
- ・環境配慮のまちづくりを目指す東田地区においては、環境共生型住宅の建設や環境保全に積極的に取り組む事業所立地が進んでいる。これを契機として、当該地区のを核として八幡地区全体の活性化を進める必要がある。
- ・人口減少等によるまちの活力低下の抑制と、環境負荷の小さい都市構造の転換や、既存ストックの活用などによる都市の持続可能性を高めるため、街なか居住の促進を図る必要がある。

#### 将来ビジョン(中長期)

「世界の環境首都」を担う先進の環境共生型まちづくりを進めている八幡東田地区(八幡東田グリーンビレッジ)を中心に、「北九州市ルネッサンス構想 まちづくり推進計画2010」、「北九州市都市計画マスタープラン(全体構想)」及び「北九州市(八幡地区)中心市街地活性化基本計画」等の上位、関連計画の将来像を踏まえて、

～公民協働の環境共生まちづくりを推進し、職・住・遊・学が一体となった生活創造型のまちをつくる～

- ・『北九州市ルネッサンス構想 まちづくり推進計画2010』では、「世界の環境首都」を6つの施策の柱として掲げている。
- ・『北九州市都市計画マスタープラン(全体構想)』では、八幡地区を生活支援機能の充実やにぎわい空間の形成を図る「地域拠点」に位置づけ、東田地区を情報関連産業など新しい産業の集積を図る「次世代産業拠点」に位置づけている。
- ・『北九州市(八幡地区)中心市街地活性化基本計画』では、「一職・住・遊・学が一体となったふれあいいきいき生活創造型のまちづくり」を基本理念としている。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
環境ミュージアム来館者数	人/年	環境ミュージアムへの年間の来館者数	環境学習の拠点施設である環境ミュージアムへの来館者数により、環境共生まちづくりへの関心の指標とする。	113,229	平成17年度	120,000	平成23年度
JRスペースワールド駅の乗降者数	人/日	スペースワールド駅の1日平均の乗降者数	八幡東田地区の中央に位置するJRスペースワールド駅の乗降者数により、住みやすく、魅力あるまちの指標とする。	3,490	平成17年度	4,500	平成23年度
省エネライフ実践戸数の割合	%	八幡東田環境共生住宅居住者における入居時と比較しての1人当たりのエネルギー使用量削減達成戸数の割合	省エネの実践戸数により、エコライフの定着度の指標とする。	0	平成17年度	100	平成23年度
居住人口	人	八幡地区内における居住人口	八幡地区内の居住人口により、東田地区及び既成市街地への居住促進の指標とする。	32,159	平成17年度	31,000	平成23年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(公民協働による環境共生まちづくりの推進)</p> <p>・河川愛護団体や地元自治会等による清掃活動等が行われている板櫃川を、近隣小学校も参加した河川環境学習など様々な活動の拠点として、また、また沿川が歴史・風土の散策ルートとして活用されるよう整備する。          ・環境共生型まちづくりを目指す「八幡東田グリーンビレッジ構想」の推進母体である「八幡東田グリーンビレッジ推進地域協議会」(学識経験者、市民団体、地域内事業者、行政で構成)の運営及び活動の支援を行う。</p>	<p>■板櫃川親水空間整備事業(基幹事業/高質空間形成施設)  <input type="checkbox"/>八幡東田グリーンビレッジ推進事業(提案事業/まちづくり活動推進事業)          [八幡東田グリーンビレッジ推進地域協議会活動]</p>
<p>整備方針2(人と地球環境にやさしい都市環境と質の高い省エネライフの創造)</p> <p>・自転車、歩行者にも安全で快適な道路空間を確保するため、地域内の道路、橋梁等の整備を行う。          ・渋滞による二酸化炭素等排出を抑制するため、都市高速道路のランプを整備しアクセス強化を図る。          ・地球温暖化、ヒートアイランド対策として効果のあるエコドライブを地域一体の取組みとして推進するための仕組みを整備する。          ・地域住民に対し、エコライフの実践、定着、持続のための学習、情報交流等の機会を提供する。</p>	<p>■枝光1号線(港町橋)[橋梁架替等](基幹事業/道路)          ■八幡戸畑線[舗装補修等](基幹事業/道路)          ■春の町大谷1号線[舗装補修、歩道橋補修等](基幹事業/道路)          ■大蔵大谷1号線[災害防除等](基幹事業/道路)          ■中央桃園1号線[災害防除、歩道橋補修、舗装補修]事業(基幹事業/道路)          ■桃園尾倉1号線[舗装補修、歩道橋補修](基幹事業/道路)          ■中央1号線[舗装補修、歩道橋補修等](基幹事業/道路)          ■平野3号線[舗装補修等](基幹事業/道路)          ■西本町帆柱1号線[舗装補修等](基幹事業/道路)          ■八幡戸畑線電線類地中化等事業(基幹事業/道路)  <input type="checkbox"/>戸畑大谷線(尾倉ランプ)整備事業(関連事業)  <input type="checkbox"/>国道3号戸畑西交差点改良事業(関連事業)  <input type="checkbox"/>八幡東田グリーンビレッジ推進事業(提案事業/まちづくり活動推進事業)          [エコドライブ推進モデル事業]          [エコライフワークショップ]</p>
<p>整備方針3(緑豊かで潤いのある街並みと快適で利便性の高い都市生活の創造)</p> <p>・「八幡東田グリーンビレッジ構想」に基づき、八幡東田地区及び周辺地区において市民、NPO、企業が協働して、植樹や花植えに取り組むために仕組みづくりや支援を行い、緑豊かな住環境を整備する。          ・地区内の主要な幹線道路の街路樹や都市公園の整備を行うことにより、緑と潤いのある都市空間を創出する。</p>	<p>■東田1号公園(基幹事業/公園)          ■花と緑の並木通り整備(基幹事業/高質空間形成施設)  <input type="checkbox"/>八幡東田グリーンビレッジ推進事業(提案事業/まちづくり活動推進事業)          [地域内緑化事業]          ■東田地区遊歩道整備事業(基幹事業/高質空間形成)  <input type="checkbox"/>東田グリーングリッド推進事業(提案事業/まちづくり活動推進事業)</p>
<p>整備方針4(既成市街地における街なか居住の促進)</p> <p>・環境共生型のまちづくりを推進し、都市の持続可能性を高めるため、環境共生型住宅の整備を図る。          ・既成市街地における居住促進を図るため、ファミリータイプの賃貸住宅の供給促進を図る。また、高齢者が安心して住み続けられるよう、賃貸住宅の供給促進を図る。          ・斜面住宅地において住民の高齢化が進んでおり、高齢者が安心して快適に住み続けることができるよう、また、中心市街地に近い魅力あるまちとして新たな居住促進を図るため、住環境整備を行う。          ・地域住民の地域づくり・まちづくり活動の拠点施設として、市民センターの整備、改修を行う。</p>	<p><input type="checkbox"/>八幡東田グリーンビレッジ環境共生住宅整備事業(関連事業/民間)  <input type="checkbox"/>特優賃・高優賃住宅(関連事業)  <input type="checkbox"/>丸山・大谷地区斜面地住環境整備事業(関連事業)          ■尾倉市民センター分館整備事業(基幹事業/高次都市施設)  <input type="checkbox"/>平野市民センター改修事業(提案事業/地域創造支援事業)  <input type="checkbox"/>尾倉市民センター大規模改修事業(提案事業/地域創造支援事業)</p>
<p>その他</p>	



## 八幡地区(福岡県北九州市) 整備方針概要図

目標	環境首都を担う先進モデル地区として、市民・事業者のみならず、来訪者をも含む環境共生まちづくりを実践し、魅力的で持続可能な都市環境の創造と地域の活性化を目指す。	代表的な指標	環境ミュージアム来館者数 (人/年)	113,229 (17年度)	→	120,000 (23年度)
			JRスペースワールド 駅の乗降者数 (人/日)	3,490 (17年度)	→	4,500 (23年度)
			省エネライフ実践戸数率 (%)	0 (17年度)	→	100 (23年度)
			居住戸数 (人)	32,159 (17年度)	→	31,000 (23年度)

